

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902500	事業の開始年月日	平成16年12月1日
		指定年月日	平成16年12月1日
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住まいの横須賀大矢部		
所在地	( 238-0024 ) 神奈川県横須賀市大矢部 3-18-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年3月4日	評価結果 市町村受理日	平成28年7月14日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた生活が送れるように、スタッフはお客様との関わりを大切にしています。勤続年数が高いスタッフが多いので、ご家族様との双方のコミュニケーションも積極的に図っています。  
近隣には徒歩で行ける距離にスーパーがあるので、買い物も行きやすいです。毎月、外出のイベント等も企画してお花見や外食などの機会も作っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年3月16日	評価機関 評価決定日	平成28年6月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路から1、2分横道へ入った閑静な住宅街にあり、木造3階建てで中庭を囲んで廊下を配置しています。認知症専用の施設として設計されたグループホームです。

<優れている点>

利用者が過ごしやすさばかりでなく職員も働きやすい環境設計がされています。明るい共用空間、ゆったりと過ごせる居室、ホームの中心に皆で集える中庭が用意され、働きやすいキッチン、広い事務室と、働きやすい環境を実現しています。在職が長くて経験豊かな職員が多く、利用者の気持ちを察したケアを行っています。毎日の食事は職員が自主的に献立を工夫して立て、利用者と一緒に買い物に行き、調理して提供し、利用者にも喜ばれています。また、月1回ケアカンファレンスを実施し、管理者他職員全員で、利用者の状態を話し合い、個別の課題を出し合い、ケアプランに繋げて利用者へのケアをきめ細かく行っています。

<工夫点>

毎月行事担当職員を2名決め、企画から実施まで行っています。花見、いちご狩りなどの外出の他、中庭でのバーベキューなどのイベントを担当し、職員が交代で関わることで、変化に富んだ企画となっています。利用者も共同生活を行うために、食後の片づけ、中庭の水やり、スーパーへの買い物など役割を持って参加し、活躍しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	○ 2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	○ 3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念を朝礼時に斉唱している。事業所の理念があるが、数年が経過しているので改めてどういった方針でお客様に過ごしていただくのか話し合いをする必要がある。	行動規範を毎朝職員が唱和しています。行動規範の中に「地域社会が夢を持つ企業」とあり、地域密着の考えを持ち、職員と共有をしています。モットーにも「社会の満足」「利用者の満足」「従業員の満足」と共に掲げて実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の小学校から卒業式の案内をいただいている。こういった機会を大切にしている。	自治会へ加入しています。近隣の小学校の運動会に見学へ行き、交流があります。中学校から就業体験の生徒が毎年訪れています。地域のボランティアの人が月2回将棋を指しに訪れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学校の就業体験を受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	主にご家族様と民生委員の方にご参加いただいています。情報交換と意見交換の場として実施している。	年6回開催しています。民生委員、家族が参加しています。市の担当課の人は年1回参加し、その年の施策などを伝えてくれています。活動報告が主ですが、意見交換も行っています。	この地域担当の地域包括支援センターにも呼びかけ、参加を促すことが期待されます。また、自治会との結びつきを更に強めるため、自治会幹部の参加を働きかけることが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談ごとがあった時には市の職員と連絡を取り、協力関係を築けるようにしている	市の指導監査課との連携がとれるようになっています。地域包括支援センターとの結びつきや協力関係はまだ十分ではなく、今後の課題となっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行っていない。転倒リスク等の高いお客様に関しては自室にセンサーを設置させていただいている。ご家族様に説明と同意をいただいている。数年使用しているお客様もいるので、見直し検討が必要。	身体拘束については法人作成のマニュアルがあり、研修時に使用しています。居室でのセンサー使用が各フロアで数名あります。長年使用している状態ですが、使用なしでも過ごせるのか再検討する予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について学ぶ機会を持つように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に学ぶ機会を持っていない。外部の研修等、情報を集めて参加を促していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明の際、「ここまでで不明なことがありますか？」など確認をしながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	隔年でご家族様にアンケートにご記入いただいている。H28.1から管理者変更となっているので、ご家族様とのコミュニケーションを積極的に図っていくようにする。	家族の参加する運営推進会議でも意見を聞いています。また、毎年法人が行う家族アンケートがあり、結果が事業所に届いています。改善すべきことがある場合は対応しています。家族の人とは日頃からコミュニケーションを密接にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、CSミーティングを開催。運営に関して意見交換する場となっている。	月1回のフロアごとの全体会議と、ケアカンファレンスの定例会議を行っており、その際に職員から運営に関する要望や意見を出してもらっています。また、日常的に管理者に意見、提案などを話せる環境になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度末に人事考課の実施。 半年・1年を振り返り、評価や課題の設定、来期の目標設定など実施しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は毎月開催されており、参加できるようにシフト等調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横須賀市のグループホーム協議会に参加しており、研修の案内などはきいている。参加できるように努めていく。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントの際、ご本人様とも挨拶を交わしADLや様子など確認。どんな関わり方が安心されるか、情報収集。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントの際、まずはご家族様のお話しをうかがうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントの際、どういった状況かしっかり情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の意思を尊重しつつ、寄り添ったケアを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、1か月間の「生活の様子」をご家族様へ郵送している。又、スマイル便りを作りご家族様に写真等で様子をご報告している。何か気づいたことがあればいつでもご相談下さいということをお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月1回、外出の企画をしている。馴染みの場所など出かけていく機会を大切にしていきたい。	近くのスーパーまで利用者と一緒に行き買い出しに出掛けています。家族と馴染みの美容院やレストランへ出かけたり、お墓参りに行っています。また、知人に電話をかけて、連絡を取るなどの支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアでの過ごし方など、コミュニケーションが図れるように座席など検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービスが終了しても相談や支援が出来るように努めていきたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	穏やかな生活を送っていただくように努めている。これからは、個別の思いの把握にもっと力を入れて取り組んでいきたい。	本人との会話の中から思いをくみ取り、家族が面会に来た時に希望を聞いています。カンファレンスの時に話し合い、楽しめることを見つけ、個別のプランに盛り込んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの際に情報を収集し、ご入居後にも安心して暮らしていただくことができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々のお客様に合った食事量・睡眠など細やかな情報をスタッフ同志で共有・把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様の意思を尊重しつつ、寄り添ったケアを心がけている。状況の変化・ご家族様の意見を聴き職員で情報共有・意見の反映を行ない計画書を作成するように努めている。	ケアプランは管理者と計画作成担当者が作成しています。毎月1回フロアごとにカンファレンスを実施し、全利用者の状態を話し合い、記録しています。ケアプランには話し合った課題、本人、家族から聞き取った意向を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や様子などを具体的に記入し共有しながら実践し必要に応じて計画書の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その場に応じた対応を心がけ支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	学校行事やボランティアの方などと地域の関わりを持ち、楽しみながら参加していただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様・ご家族様・職員が医療機関と連携を図りながら適切な対応を心がけてご希望の受診が出来るようにしている。	月2回往診医が来訪し、処方された薬は薬局が届けてくれています。入居前のかかりつけ医に受診の場合は家族が付き添っています。週1回訪問看護師が来訪し、バイタルチェック、状況観察を行い、緊急時は24時間連絡が取れる体制になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	状況の変化や気になる事があった際には訪問看護師や主治医に連絡・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族様・主治医と情報を共有し相談に努め、早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した際の指針をご説明している。看取りケアについてもご説明している。	入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」の説明を行い、同意を得ています。往診医、訪問看護師、家族と連携をとりながら、看取りケアを行っています。職員は看取りケアの研修に参加し、スキルアップを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎朝の朝礼の際、CPRを実施。緊急時の対応が出来るように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、避難訓練を実施。今年度は3月に実施。	毎年消防署の指導のもと、消防訓練、避難訓練を実施しています。利用者全員と職員分の非常用の水と食料を3日分備蓄しています。夜間の避難の場合の実施体制について更なる工夫改善を検討中です。	避難訓練の場合に近隣の住民や自治会からの応援が得られるよう避難訓練の実施などを住民や自治会に知らせるなど、協力関係を更に強めることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お客様、お一人お一人を尊重しつつプライバシーに配慮したケアの提供をしている。	トイレ誘導の声掛けはさりげなく行い、入浴介助もできるところは自分で洗ってもらい、できない部分のみ介助するなど、プライバシーに配慮しています。採用時にマナー研修を行い、プライバシーの確保について理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の意見や思いを受け止め、気分転換を図りお客様の希望に寄り添うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どのように過ごしていただくかということについては、ケアカンファレンス等でもっと話をしていく必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	居室の洗面台で、ご自分でお化粧をされているお客様もいます。馴染みのお好きなお洋服などお聞きしながら楽しみを持っていただけるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立はお客様にお聞きしながら考えている。準備や片付けなどもっと積極的に支援できるように取り組んでいく。	昼食は日勤、夕食は遅番、朝食は夜勤明けの職員が作っています。食材の買い物は近くのスーパーまで利用者と一緒にしています。献立は利用者の希望を聞きながら立てています。ジャガイモの皮むきなど利用者にも調理の手伝いをしてもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれのお客様にあった食事量を把握し盛り付け等している。水分量は毎日チェック。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	可能な限りご自分で行なっていただくようにしている。週に1回訪問歯科来訪。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせてトイレへ行ってもらえるようにしている。便座に座って排泄できるかたは車椅子の方も2人介助で行なうなどしている。	昼間は全員トイレで排泄を行っています。車いすの利用者には2人介助で行い、排泄チェック表を参考に、誘導しています。昼間はオムツを使用せず、リハビリパンツに変えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や朝食時のヨーグルトなど、自然排便を促せる働きかけを工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様の要望に添い入浴していただくように努めている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しんでいただけるような工夫もしている。	週3回の入浴は時間を決めず、本人の希望の時間に入浴を行っています。入浴拒否の利用者には、声掛け、誘導に気を遣い、無理強いしないようにしています。2人介助でも浴槽に入れない場合はシャワー浴を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室で過ごしたい方はそれぞれ居室で過ごされたりしている。休みたい時にはベッドで少し休まれてからフロアに来てお話しされることも。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お客様の状態を観察したり、新しい薬を服用する際は変化がないかなど様子を観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お客様の出来ることを把握し行っていたり散歩や気分転換が出来るよう取り組んでいく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お買い物や散歩に行っている。個別での対応については、今後もっと回数を増えるように取り組んでいきたい。	毎日の買い物に利用者も一緒に出掛けています。毎月、外出行事担当職員を決め、外出の企画、実施を行っています。三浦海岸の河津桜見物やベルニー公園のバラを見に、ワゴン車を借り、全員で出掛けています。	気候が良くなったら、月1回の外出の他、近隣の公園に散歩に行くなど、日常的に外出をする支援も期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状、実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様から電話があった際にはご本人様にかわりお話しをしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様に心地よく過ごしていただくように整理・整頓を心がけている。また、季節にあった飾りも行い季節感を味わっていただけるように取り組んでいる。	リビングの照明を電球から蛍光灯に変えるなどの改善を行い、居心地の良い空間となっています。明るい中庭を広い廊下が囲んでおり、廊下を自由に歩き回れる設計です。リビングが事務室からも近く職員と利用者がいつも身近に接することができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーに座ってお一人で過ごされることはある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのものをご入居の際には持ってきていただけるようにお伝えしている。	居室は7畳ほどの広いフローリング張りの部屋ですが、天袋付きの押し入れや、つり下げ照明で和室の雰囲気を感じられる過ごしやすい部屋です。利用者はタンス、仏壇、写真など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーになっており、安全に暮らす環境になっている。		

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念を朝礼時に斉唱している。事業所の理念があるが、数年が経過しているので改めてどういった方針でお客様に過ごしていただくのか話し合いをする必要がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の小学校から卒業式の案内をいただいている。こういった機会を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学校の就業体験を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	主にご家族様と民生委員の方にご参加いただいています。情報交換と意見交換の場として実施している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談ごとがあった時には市の職員と連絡を取り、協力関係を築けるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行っていない。転倒リスク等の高いお客様に関しては自室にセンサーを設置させていただいている。ご家族様に説明と同意をいただいている。数年使用しているお客様もいるので、見直し検討が必要。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について学ぶ機会を持つように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に学ぶ機会を持っていない。外部の研修等、情報を集めて参加を促していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明の際、「ここまでで不明なことがありますか？」など確認をしながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	隔年でご家族様にアンケートにご記入いただいている。H28.1から管理者変更となっているので、ご家族様とのコミュニケーションを積極的に図っていくようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、CSミーティングを開催。運営に関して意見交換する場となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度末に人事考課の実施。 半年・1年を振り返り、評価や課題の設定、来期の目標設定など実施しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は毎月開催されており、参加できるようにシフト等調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横須賀市のグループホーム協議会に参加しており、研修の案内などはきいている。参加できるように努めていく。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントの際、ご本人様とも挨拶を交わしADLや様子など確認。どんな関わり方が安心されるか、情報収集。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントの際、まずはご家族様のお話しをうかがうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントの際、どういった状況かしっかり情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の意思を尊重しつつ、寄り添ったケアを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、1か月間の「生活の様子」をご家族様へ郵送している。又、スマイル便りを作りご家族様に写真等で様子をご報告している。何か気づいたことがあればいつでもご相談下さいということをお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月1回、外出の企画をしている。馴染みの場所など出かけていく機会を大切にしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアでの過ごし方など、コミュニケーションが図れるように座席など検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービスが終了しても相談や支援が出来るように努めていきたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	穏やかな生活を送っていただくように努めている。これからは、個別の思いの把握にもっと力を入れて取り組んでいきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの際に情報を収集し、ご入居後にも安心して暮らしていただくことができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々のお客様に合った食事量・睡眠など細やかな情報をスタッフ同志で共有・把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様の意思を尊重しつつ、寄り添ったケアを心がけている。状況の変化・ご家族様の意見を聴き職員で情報共有・意見の反映を行ない計画書を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や様子などを具体的に記入し共有しながら実践し必要に応じて計画書の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その場に応じた対応を心がけ支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	学校行事やボランティアの方などと地域の関わりを持ち、楽しみながら参加していただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様・ご家族様・職員が医療機関と連携を図りながら適切な対応を心がけご希望の受診が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	状況の変化や気になる事があった際には訪問看護師や主治医に連絡・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族様・主治医と情報を共有し相談に努め、早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した際の指針をご説明している。看取りケアについてもご説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎朝の朝礼の際、CPRを実施。緊急時の対応が出来るように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、避難訓練を実施。今年度は3月に実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お客様、お一人お一人を尊重しつつプライバシーに配慮したケアの提供をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の意見や思いを受け止め、気分転換を図りお客様の希望に寄り添うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どのように過ごしていただくかということについては、ケアカンファレンス等でもっと話をしていく必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	居室の洗面台で、ご自分でお化粧をされているお客様もいます。馴染みのお好きなお洋服などお聞きしながら楽しみを持っていただけるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立はお客様にお聞きしながら考えている。準備や片付けなどもっと積極的に支援できるように取り組んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれのお客様にあった食事量を把握し盛り付け等している。水分量は毎日チェック。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	可能な限りご自分で行なっていただくようにしている。週に1回訪問歯科来訪。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせてトイレへ行ってもらえるようにしている。便座に座って排泄できるかたは車椅子の方も2人介助で行なうなどしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や朝食時のヨーグルトなど、自然排便を促せる働きかけを工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様の要望に添い入浴していただくように努めている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しんでいただけるような工夫もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室で過ごしたい方はそれぞれ居室で過ごされたりしている。休みたい時にはベッドで少し休まれてからフロアに来てお話しされることも。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お客様の状態を観察したり、新しい薬を服用する際は変化がないかなど様子を観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お客様の出来ることを把握し行っていたり散歩や気分転換が出来るよう取り組んでいく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お買い物や散歩に行っている。個別での対応については、今後もっと回数を増えるように取り組んでいきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状、実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様から電話があった際にはご本人様にかわりお話しをさせていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様に心地よく過ごしていただくように整理・整頓を心がけている。また、季節にあった飾りも行い季節感を味わっていただけるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーに座ってお一人で過ごされることはある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのものをご入居の際には持ってきていただけるようにお伝えしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーになっており、安全に暮らす環境になっている。		

平成27年度

## 目標達成計画

スマイル住まいる横須賀大矢部

作成日： 平成28年7月1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加メンバーに地域包括支援センターの職員が含まれていない。	地域担当の包括支援センター職員へ連絡を取り、会議へ参加していただき情報を共有する。	今後、開催する運営推進会議の日程をご案内し、参加頂ける日程を合わせていく。グループホームから積極的に情報も提供。	8ヶ月
2	35	避難訓練の際、近隣住民の方の関わりが持てていない。	住民や自治会の方達の協力を得て、避難訓練の実施が出来る。	まずは、町内会とのつながりを再度気付いて行く。町内の活動への参加。避難訓練実施のお知らせ等の発信。	8ヶ月
3	49	買物（毎月）には行っているが、個別での散歩など回数が少ない。	個別で外出する機会も作る。	プランの内容を見直し、グループホームでどのように過ごして頂くか、具体的に挙げていく。毎月のモニタリング時に実施の有無を確認。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月